

開催日：令和3年3月1日（月）13：00～16：00

開催場所：釧路市観光国際交流センター

## 第27回釧路湿原自然再生協議会 議事要旨（案）

### 1. 開会

### 2. 第10期（前期） 釧路湿原自然再生協議会の運営について

#### 1) 第10期（前期）協議会構成員の公募結果報告

事務局から第10回協議会構成員の公募結果について報告し、協議会委員相互で公募結果を確認した。

#### 1) 第10期協議会の会長及び会長代理の選出

委員の互選により会長及び会長代理の選出が行われた。会長として中村太士委員が選任され、会長代理として高橋忠一委員が選任された。

### 3. 議事

#### ■議事1：第9期（後期）協議会の収入報告

事務局から第9期（後期）協議会の収支報告を行い、協議会委員相互で収支内容を確認した。

・質疑は無かった。

#### ■議事2：第26回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告

事務局から第23回湿原再生小委員会、第24回河川環境再生小委員会、第25回土砂流入小委員会、第20回森林再生小委員会、第19回水循環小委員会、第10回地域づくり小委員会、第35回及び第36回再生普及小委員会の開催概要について報告した後、内容について協議が行われた。

#### 【湿原再生小委員会について】

#### ■達古武湖自然再生事業について

（委員）

・ラワンブキはこの地域では確認されておらず、このあたりに自生しているブキはアキタブキであるため、訂正したほうが良い。

（事務局）

・アキタブキに修正する。

(会長)

- ・ヒシのワイヤー刈りについて、他の水生植物への大きな影響はないとのことであるが、ワイヤー刈りは合理的な手法であり、希少種への影響はないという判断なのか。

(事務局)

- ・湖面に水生植物が少ない箇所を実施しているため、ワイヤー刈りによる水生植物への影響は少ないと考えている。今後、水生植物が増加した場合は、機械的なワイヤー刈りはできなくなる可能性があるため、モニタリングをしながら実施方法を検討していく。

#### ■ 広里地区自然再生事業について

(会長)

- ・広里地区について、最終的にこの場所がどんな状況になれば良いという、目標とする姿があれば教えてほしい。

(事務局)

- ・湿原再生小委員会では、ハンノキ林と合わせて旧農地区域もモニタリングを継続していく必要があるのではないかという意見をいただいている。それに付随して、現地見学会の実施についても検討しており、現地状況を委員に見ていただいた上でご意見をいただきながら検討していきたい。

(会長)

- ・目標を共有することで方向性が定まるので、小委員会の中で議論していただけると良い。

#### 【河川環境再生小委員会について】

#### ■ 茅沼地区旧川復元事業について

(委員)

- ・ハンノキの環状剥皮では、上部は枯れても株は成長し続けるのではないかと。この対策についてどう考えているのか。

(事務局)

- ・委員と相談しながら試験を進めているが、現状としては、地下水位の高い箇所で環状剥皮を行えば萌芽が抑えられる可能性があるため、今後の状況についてはモニタリングしながら検証し、今後役に立っていく考えである。

(委員)

- ・普通は地上部が枯れると萌芽が出て再樹林化するが、地下水位が高いところで環状剥皮

をすることで萌芽が少なくなるという結果が出ている。これはこの1～2年の結果であるため、今後の経過をもう少し見ていきたいと考えている。

(会長)

- ・ニセアカシアなどでの環状剥皮の事例もあるので、色々と参考にさせていただきたい。

#### ■釧路川支川魚類生息環境の再生事業について

(委員)

- ・今回、自然再生事業としては北海道でおそらく初めてとなる民間による実施計画を策定した。先月2月26日の自然再生専門家会議において議論いただき、多くの委員から好意的な意見をいただいている。今回、自然再生協議会でも正式に自然再生事業の一つとして取り上げられることとなった。関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げる。

(会長)

- ・落差工はおそらく元々行政で設置しているということで、今後、民間ベースだけではなく、行政とも協力して実施していただければ良いと思う。

#### 【土砂流入小委員会について】

##### ■河川沿いの土砂調整地について

(委員)

- ・令和2年度に土砂撤去は実施したのか、あるいはそのままの状態なのか教えてほしい。

(事務局)

- ・令和2年度は土砂撤去を実施していない。令和3年度に関係機関と調整して土砂の撤去を検討していく予定である。

(委員)

- ・農地防災の中で沈砂池の管理を行っているが、水面より上に土砂が堆積している場合はすぐに撤去するようにしている。その年に撤去しなければ、出水の際にそのまま下流に流れてしまう。

(委員)

- ・溜まった土砂を放置していると、管理不行き届きという批判を受けかねない。夏に土砂上げを実施するとサケの遡上への影響や河川汚濁につながるため、まずは現状把握を行い、こういう状況になれば冬期間に土砂を撤去する、という管理をしっかりとしてほしい。また、撤去した土砂をどこに運んで処理するのかについても決めてほしい。

(事務局)

- ・土砂調整地は令和元年に工事が完了し、今年度が 1 年目の経過となる。調整地内の土砂については、来年度に横断測量を実施し、土砂置き場の検討も含めて関係市町村と協議して対応していきたい。

(委員)

- ・ヌマオロ地区でも上流域の農地から土砂が発生していることから、沈砂池が必要ではないか。

(事務局)

- ・ヌマオロ地区については、今後の事業計画で沈砂池を設置する予定はないが、上流で土砂が発生している状況については情報をいただき把握している。発生源のほうでどのような対策ができるのかという情報を踏まえた上で、下流域で何ができるのか議論していきたいと考えている。

#### 【森林再生小委員会について】

(委員)

- ・森林性歩行昆虫のモニタリング結果では、再生地だけでなく対照地でも個体数が減少している。目標とする自然林自体の変化以外にも要因が考えられるため、調査方針を検討したほうが良いと思う。

(事務局)

- ・改めて調査結果を確認して、今後の調査方針の参考にしていきたい。

(会長)

- ・植栽している再生地の森林自体も、現状はカラマツの人工林が林冠を覆っている。林内に多少広葉樹が生えたとしても下層植生は大きく変化していないのかもしれない。指標種の選定も含めて、今後小委員会で議論していきたい。

#### 【水循環小委員会について】

- ・質疑は無かった。

#### 【地域づくり小委員会について】

(委員)

- ・クリーンウォークなどで湿原内を歩いていると、赤沼の周辺に昔の調査の残骸（テープや木材など）が結構残っている。調査が終了したら撤去するなどのルールづくりをしてほしい。

【再生普及小委員会について】

- ・質疑は無かった。

■その他

(会長)

- ・ 昨年の9月1日に行われた「第26回釧路湿原自然再生協議会」で、民地で行われている森林伐採などの情報を事前に把握することが難しいという話題があり、事前に情報を得る方法はないかと議論をしてきた。この問題について協議会で議論していくために、準備会を立ち上げた。自然再生事業で取り扱っている問題以外に、どのような課題があるかを挙げ、解決策・方向性を探っていきたい。どういう形で進めていくか決まった段階で、協議会で報告し情報を共有したい。

(会長)

- ・ 気候変動の適応策について議論する「北海道広域協議会」の中で、Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）の例として、水循環小委員会で検討した釧路湿原のモデルによる結果が使われている。気候変動により流量が変化することで、土砂や栄養塩などの物質循環がどう変わるか等の結果を示しており、今後、水循環小委員会と他の小委員会が連携しながらアピールしていくことは重要だと思う。地球温暖化による気候変動の問題は地域住民にとっても非常に関心があることであり、釧路湿原によって町が守られているということを示すことができれば、社会的な関心も高くなると感じる。釧路湿原の自然再生事業が気候変動の適応にどの程度良いことなのかをアピールするのが良いと思う。釧路湿原自然再生協議会としてこの気候変動の問題に協力していくということでご理解いただきたい。

—以 上—

## 第 27 回釧路湿原自然再生協議会における課題と対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針
湿原再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒシのワイヤー刈りは他の希少な水生植物への影響は少なく合理的な手法と判断して良いのか。</li> <li>・広里地区の将来的に目標とする姿はあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖面に水生植物が少ない箇所では実施しているため、影響は少ないと考えている。今後、水生植物が増加した場合はモニタリングしながら手法を検討していく。</li> <li>・小委員会で、旧農地区域のモニタリング実施の必要性について意見をいただいております。付随して実施検討している現地見学会の中で意見を伺いながら検討していきたい。</li> </ul>
河川環境再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンノキは環状剥皮しても生き残り樹林化することはないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下水位の高い箇所で環状剥皮を実施すれば萌芽を抑制して枯死する可能性がある。今後の状況をモニタリングで把握していく。</li> </ul>
土砂流入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河道沿いの土砂調整地に堆積している土砂について現状の把握、今後の撤去や土砂置き場の検討を実施してほしい。</li> <li>・ヌマオロ地区でも上流域の農地から土砂が発生していることから、沈砂池が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度に横断測量を実施する予定である。土砂の撤去・土砂置き場についても関係機関と協議して検討していく。</li> <li>・今後の事業計画で沈砂池を設置する予定はないが、発生源での対策などの情報を踏まえた上で、下流域での対策を検討したい。</li> </ul>
森林再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林性歩行昆虫のモニタリング結果では、再生地だけでなく対照地でも個体数が減少している。自然林自体の変化以外にも要因が考えられるため、調査方針を検討したほうが良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて調査結果を確認し、今後の調査方針の参考にしていきたい。</li> </ul>
水循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑なし</li> </ul>	
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の調査で使用した木材やテープ等の残骸がそのまま残っている。調査終了後は撤去するなどのルールづくりをしてほしい。</li> </ul>	

再生普及	・質疑なし	
項目	発言概要	回答および今後の対応方針
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林伐採などの開発に関して議論していくための準備会を立ち上げた。今後の進め方については決まり次第報告する。</li> <li>・気候変動の問題について釧路湿原自然再生協議会として対応していく。</li> </ul>	